
枯れた花ー 1 ー

FRIDAY

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

枯れた花―1―

【Nコード】

N7656J

【作者名】

FRIDAY

【あらすじ】

ある都会に来た姫香。
彼女を迎えに来た裕也。
二人は幼馴染。

しかし姫香は広すぎる駅のホームで
こともあろうか迷ってしまう・・・！

迷いの地へ（前書き）

地元から離れた高校に入るために来た姫香は・・・！

迷いの地へ

姫香「うー・・・・・・・・。」

私は駅のホームで立ち尽くした

姫香「時間を過ぎたのにまだ来ない・・・・・・・・。あいつは時間にルーズだからなあ・・・・・・・・。」

ブツブツ言っても仕方がない

私は駅をブラブラすることにした

もし来たとしてもメールで何とかなるだろうと思っていた

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

姫香「迷った・・・・・・・・。」

まさかの駅のホームで迷ってしまった

自分が方向音痴だとわかっていたのにも関わらず・・・・・・・・不覚だった・

仕方ない

メールで待ち合わせをするか・・・・

『ピー』

嫌な音になった

姫香「この音は……。」

恐る恐る携帯を見ると

電源がもうなかった

せめて連絡を……!!!!

『プツン……』

うそでしょ!?!?

画面が消えちゃった……!

どうしよう……!

道がわからないし

どうすれば……!

……

・・・・・・・・・・・・・・・・

裕也「・・・・・・・・あんにゃろ。」

待ち合わせ場所にいない姫香を裕也は恨んだ

裕也「あいつって確か・・・方向音痴・・・・・・・・。」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私、姫香と裕也は幼馴染です

裕也は中学のときに地元から県外へ転校してしまって

友だちと話すのが苦手な私は

心を許せる唯一の友だちをあの時目の前からは失った

でもメールはしてるから

なかなか楽しかった

それで

何で私が地元から県外のこんな所にいるのかというと

それは今紹介した幼馴染に誘われたから

私は中学のとき色々あって

問題児扱いされていたので

地元じゃないここには私の過去を知る者はおらず

居心地が良いと考えた

私と裕也の意見だ

私は裕也の高校に入学をすることになる

新しい自分に生まれ変わるチャンスに胸をときめかせたい所なの
だが

どうやら私にはそんな余裕が今はないらしい

迷っている

姫香「どうしよう・・・。」

.....

裕也「あいつはどこで何をしてるんだ・・・！」

迷いの地へ（後書き）

はじめまして。

F R I D A Yです。

まだまだ初心者ですが
がんばりますのでよろしくお願いします。

「コレあげる。」(前書き)

駅のホームで迷ってしまった姫香。
その時ある謎の人物に出会う・・・！

「コレあげる。」

姫香「どうしよう・・・。」

道には迷い

携帯の電源は切れ

もうどうしようもなくなっていた

あいつが遅いからいけないんだあ・・・！（泣）

・・・ってあいつのせいにした所でどうにもなんないんだけどね

今はこの状況を脱出したいの！

誰か天使の声はないわけ？

私がひたすら歩いていると

前方からチャラチャラした男の人達が2人ほど来た

「何してんの？」

「暇なら遊ぼうよ。」

きた・・・

ナンパだよ

私こういうチャライ男って

姫香「大っ嫌いなんですけど・・・。」

わっ

やばい

声に出しちゃった・・・

でもそれは事実

私は逃げようとして駆け出していた

「生意気だな。」

男達は腕をつかんだ

強く握られていた手首は痛かった

姫香「離してください。」

「嫌だ。生意気な口を聞かれてこのまま返すのもアレなんで。」

「ちょっと来てもらいましょうか？」

私は男達にズリズリと引っ張られる

逃げたい・・・！

でも周りは見てみぬふり

助けて！

そう思っていると

ガシッと違う温度の腕が私の腕をつかんだ

青年「こうやって女の子に男二人係。しかも女の子は年下。弱いものいじめはいけないよ？」

私は声のした方を見た

綺麗な黒髪に

鋭い光を発する瞳

男達は真っ青になり私から手を離れた

「も・・・望月さん・・・。」

この男達がさん付け

よほどすごい人なのだろう

男達は一回礼をして走って逃げていった

青年「ひどいよね。ああいうの。」

助けてくれたその青年は私に向かって微笑んだ

姫香「あ、ありがとうございます。」

私は深く礼をした

姫香「あ、あの私・・・行かなきゃいけないから・・・。」

私はあまり関わりたくなかったのか

恩人に背を向け違う場所に移動をしようとした

するとクイツと服の裾を引っ張られた

そこにいたのはまだ10歳くらいの女の子だった

茶のウェーブがかかった髪に

青い瞳

外人っぽいが外人ではない

そんな不思議な少女だった

青年「その子、あんたにあげたいものがあるってさ。」

青年は向こう側でまた微笑んだ

女の子はポケットから何かを握る

そしてその手を私の前で開いた

そこにはキャンディーがあつた

少女「コレあげる。」

少女は透き通るような声で言った

姫香「これを私に？」

私はそれをゆっくりもらい

開けてみた

綺麗な青い水晶のようなキャンディーだった

私はそれを口に入れる

姫香「ん。なかなかいけますぞ？ありがとうございます。」

私が再び女の子を見た時

女の子はそこにいなかった

あの青年もいない

私はただ呆然としていた

姫香「あれ？」

私はあることに気づいた

道が・・・わかる・・・

私は思うがままに進んでみた

すると・・・

裕也「姫香っ！」

裕也が向こうからやってきた

息切れをしている

姫香「裕也！」

裕也「『裕也！』じゃねえよ！どんだけ探したと思ってやがんだ！」

裕也は私の手を強引に引く

裕也「行くぞ。」

姫香「へ？」

裕也「お前のマンションに行く。」

「コレあげる。」（後書き）

記念！2回目です！

いやぁ・・・

二人めぐり合ってよかってですな〜^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7656j/>

枯れた花ー 1ー

2010年10月25日04時25分発行